

令和7年度第3回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和8年3月18日(水) 14:00~15:50

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 構成員7名 事務局4名

(構成員) 米谷 啓和 座長 三宅 靖子 氏 井関 崇博 氏  
大西 麻衣子 氏 瀬木 陽介 氏 増田 英敏 氏 横田 和江 氏

(事務局) 市民参画部 木村 部長  
市民活動・ボランティアサポートセンター 吉田 所長 前坂 主任 杉尾 主事

次 第

1 開 会

2 議 事

報告

- ・ ひめじ de ボランティア 2025 の実施結果について

議題

- (1) 令和8年度事業計画案について
- (2) ボランティア活動に関するアンケート調査項目について

その他報告事項

なし

3 閉 会

## 会議の進行記録（要点記録）

### 【報告】 ひめじ de ボランティア 2025 の実施結果について

事務局：資料に従って説明

座 長：報告事項についてご意見を伺いたい。

事務局：「ひめボラ市」については、前回会議で報告した内容から変更はなく、資料も同じであるため、今回は、「ひめボラ」を中心にご意見いただけるとありがたい。

構成員：当団体もひめボラの受入団体として、普段の活動内容であるごみひろいを体験してもらった。アンケートにも書かれているように、市民と団体とを繋いでくれるプラットフォームとして機能しているとすごく感じている。

課題としては、当日になっても来ない方がたまにいる。今回も当日連絡なく来ない方がいたが、友達がたまたま参加していたので、参加不参加の確認が取れた。その辺りの連絡の難しさは感じている。

構成員：当団体も 11 月中に 3 回、観光ボランティアガイドのひめボラ体験者を受け入れた。私ももう 1 人のメンバーで 3 回を分担して案内した。

私の場合、ガイドをするうえでのちょっとした注意点（ガイド中の通行車両への配慮、参加者への配慮など）や声の大きさなどをお伝えするようにしている。

そのためガイド体験と言っていいものかどうかでいつも悩んでいるが、ガイドする側の体験を試してみようと思っても実際すぐには難しいので、当団体のガイドの特徴や良さ、参加者の声などをざくばらんにお話している。そこから団体や活動に興味を持ってもらえたらと考えている。

座 長：私が主催する NPO 法人でもひめボラの受入れを行ったことがあるが、体験者と参加者とのすみわけというか、どこまで体験してもらえるのかが確かに難しい。

当団体の体験メニューは、森の案内ガイドであったが、案内講師の話を聞いていただきながら、参加者の誘導補助などの簡単な役割もあるような体験内容とした。

座 長：受入団体として、ひめボラ体験者へ体験後に案内を送ったりなど、その後の繋がりはあるか。

構成員：当団体では、活動終了後にその場で案内チラシを渡すようにしており、その後、数名は継続して参加していただいている。最近も久しぶりに 1 名来てくださるなど、たまにふと参加して下さったりすることもある。

構成員：昨年度の体験者で、あらためてガイド案内の申込みがあったと聞いている。また、ひめボラ体験で実際に興味を持っていただき、現在メンバーとして活動して下さっている方もいる。今回の私がひめボラでご案内した体験者も興味を持ってくださり、ガイドの勉強をしたいと言ってくれた。必ずそういう形で1人ぐらいはその後来ていただいている。

座長：そこはひめボラの大きな目的の一つである。そのあたりの追跡調査はセンターとしては特にやってはいないのか。

事務局：受入団体アンケートの提出時点でのその後の継続的な参加を確認する設問はあるが、少し時間をおいての追跡まではできておらず、どの時点で調査するのも難しいところではある。ただ、毎年継続して参加して下さる受入団体からは、体験者がその後継続的に参加してくれているという声も聞いている。

座長：ひめボラの目的としては、ボランティア活動・団体を知ってもらうのと、団体に新しいメンバーに加わってもらうというのがあると思う。  
体験者がその後どういう形で継続に関わり、あるいは団体がどういう発信ができているかを、各団体まかせではなく、センターでフォローすることができれば、より成果が掴めるのではないか。

事務局：12月に開催した、ひめじ de ボランティアのふりかえり交流会の中で、ひめボラやひめボラ市の参加者に継続的に参加してもらうための工夫やアイデアを団体間で話し合い、各団体のいい取組を取り入れていただくというグループワークを行った。そのふりかえりの中で出たアイデアや意見を一覧表にまとめ、ひめボラやひめボラ市の全参加団体に共有した。  
ひめボラをきっかけに来てくださったボランティア体験者を、団体側がどのようにして活動に引き込むかというところをもう少しフォローできたらと考えてる。

座長：資料1-①の中で、ふりかえり交流会の開催の報告が薄いと感じる。  
どういうふりかえりをしたかは重要な部分である。  
ふりかえり交流会から少し間を置いて、新年度4月からどのくらい来ていただけるかというのも一つのポイントなので、そういう仕組みができるようにしてほしい。

構成員：ひめボラ体験者内訳で、高校生が42名というのが多いなと思った。どういう動機で、何を求めているのかが気になった。次世代にボランティアに関わってもらう上では、高校生は一つのターゲットだと思う。もしかしたら何かの勉強のため、学校の課題になっているからかもしれないが、どう分析しているか。

事務局：昨年度のひめボラでの高校生体験者は 32 名、今年度が 42 名と少し増えているがそこまで大幅に増えたわけではない。ただ、前回報告した「夏ボラ」は、昨年度よりも倍近い学生の申込みがあった。

市立高校を始め、県立高校にも告知チラシを送付するなど、事業周知や体験募集をかなりしっかりと働きかけしているのので、浸透しつつあるのかなということくらいしか分からない。

学生の参加目的の多くは、進学や就職に向けたボランティア活動の実績作りと、活動証明書だと思う。また中には将来の進路を見据え、子どもや障がい者と関わりたいというような、明確な目的を持って参加する学生も一定数いる印象である。

構成員：証明書目当てだったとしても、その過程で、普段学校や塾との往復だけで終わってしまうところを、こういう機会を通して社会に出て、いろんな人と出会うことでいい学びになっていることは確かである。

受入団体側と体験者との動機のずれみたいなものをお互いに了解しつつ、向きあえるとよい。

構成員：社会福祉協議会では、ひめボラで体験した高校生たちが活動に定着された。

自分たちはこの春で卒業するため活動には参加できないが、後輩にバトンタッチをしたいということで、自ら募集チラシを作り、学校に配ってくれたといういい経験をされた方がいる。とてもいい取組だと思っている。

座長：学生の間は社会との接点がなかなかないので、役立つ楽しさや嬉しさと、出会ってもらえるといい。

構成員：専門学生や大学生についても、特定の学校やまとまって参加したのではなく、バラバラに来たのか。

事務局：学校で先生が取りまとめてとかではなく、あったとしても友人単位の何名かずつといった方がほとんど。

構成員：なかなか参加しにくい年代かなと思うが、参加してもらえているのに何か秘訣があるのか、それとも高校生から参加していて、大学に入っても続けようという人たちが参加されているのか、どんな人たちが来られているのか興味がある。

事務局：3年事業を続けているので、毎年いろんなメニューに参加されている方もいれば、同じメニューをずっと毎年申し込んでくださっている方もいる。そのほか、親子での参加、祖父母と孫との参加などいろいろなパターンがある。

【議題】(1) 令和8年度事業計画案について

事務局：資料に従って説明

座長：今の段階でいろいろと皆さんのご意見をいただけると、新年度事業にも十分反映ができるタイミングなので、今回の議事として事業計画概要案を提示していただくよう事務局にお願いした。何かご質問、アイデアなどあれば。

座長：ひめじおんの周年的なものや、姫路市市民活動・協働推進事業計画は確か5年ごとだったと思うが、来年度はどのようなタイミングになるか。

事務局：今年度が現計画の最終年度で改定の時期だったが、改定せずに現計画を1年から2年ほど延長する方向で先日、厚生委員会でも報告したところである。

事務局：センターはまだ周年のタイミングではない。2009年に開設したので、次回は2029年に20周年となる。

座長：大きな流れとしてそういうものもあるということでぜひご意見をいただきたい。

座長：夏ボラの参加団体募集が5月、ひめボラの参加団体募集が6月からとなっている。NPOを運営していると、5月に総会をして事業計画を立てることが多い。前振りの募集や実施スケジュールのアナウンスが年度当初にあれば、各団体が事業計画に入れやすい。

事務局：今年度からボランティア通信4月号に、年間の事業計画案を簡易的に掲載し、あらかじめ各事業の募集スケジュールなどを告知させていただいている。

構成員：具体的な事業はここに書かれている通りだとして、センターが本来求められている機能は何か、その中で具体の各事業がどう位置づいているのか。そうした枠組みや体系図があると、事業が十分なのか十分でないのかが分かりやすい。体系図があれば、どこが足りないのか、やっていないところにもう少しリソースを使っていくべきなんじゃないか、本当はもっとこんなことをやらなければいけないのではないかといった議論ができると思う。

事務局：次年度からは資料の中に体系づけて書くようにしたい。

ちなみに、資料2のうち、ひめじおん講座、ハジメのイッポ、夏のボランティア体験、ボラスタ！inひめじは「人材育成事業」、ひめじdeボランティアは「連携・交流事業」、その他活動アンケートの実施や運営会議、事務所移転は「運営事業」の一

環になる。

資料では省略されているが、センターには6つの機能があり、他の機能として「情報収集・発信事業」「活動相談事業」「団体活動支援事業」を通年で実施している。

構成員：人材育成の中には新たな人材発掘と既に活動している人のレベルアップの二種類あると思うが、ひめじおん講座は活動している方のレベルアップが主目的か。

事務局：ひめじおん講座の中では既に活動されている方向けや、これから何か始めたい方向けなどに分類した上で体系を作っており、講座の内容もバランスよく実施できるように心がけている。

構成員：いろいろな社会が変わっている中で、ボランティアを始めようとしている参加者側とボランティアをしている受入団体側、その他の人から、何が求められているか、高校生などのニーズは何かなど、現状分析や把握をうまくできると、人材育成のポイントや連携のあり方も見えてくる。

現在の事業を変えていくには、そうした調査を強化してもよいと思う。

構成員：団体によっては、ひめじ夏のボランティア体験とひめじ de ボランティア「ひめボラ」が混同しやすいため、時期は必ず事業名称を分かりやすく変更してもよいかもしれない。

また、ボラスタ！ in ひめじを運用する「ひめパス」アプリの終了にあたり、代替となる新アプリはひめじおん単独で運営していくものなのか。

事務局：予算の関係上、維持が困難となるおそれがあり、他課が運営するアプリなどと連携することで今後の広がり期待できるため、単独運営は予定していない。

構成員：担い手の育成という部分で、社協でも各支部で「担い手確保育成強化事業」に取り組んでおり、事例集としてまとめた。その中で感じたこととして、参加者側へ情報を届けることが大事だと思った。また、社協もハジメのイッポに参加したいが、ボランティア団体と社協は少し性質が違うためなかなか難しいのが現状。社協支部は自治会とともに活動されているところが多いため地元の方に来てほしいという思いが強く、過去に地域外から来てくださった方も継続には至らなかった。

事務局：ハジメのイッポやひめボラなどでは、ある程度の参加条件をつけている団体やメニューもあるので、各校区の方という条件をつけて事前に問い合わせてくださいといった形であればメニューとして参加できる可能性がある。

【議題】(2) ボランティア活動に関するアンケート調査項目について

事務局：資料に従って説明

座長：2年に1回の実施ということだが、2年前のアンケートがどう活かされたかについて知りたい。また、団体アンケートでは設問数が多いので回収率が心配な点である。最後に、10月にアンケートの結果集計を行い分析をするとすると事業にはいつ反映されるのか。8月に分析をして事業に活かしたいところである。

事務局：アンケートがどう活かされたかに関しては結果集計を行い、報告書という形で運営会議でも報告している。また、アンケート意見の中でセンター事業に取り入れているものもあるが、具体的な意見ごとに反映結果をまとめたものは作成していない。意見に対して団体へ個別に意図を質問しフォローをすることもあれば、実務を行う上で一つ一つ確認しているという状況。

回収率については一番懸念しているところであるため、皆さんのいろいろなご意見をいただきたい。

実施時期については例年通りのスケジュール感ではあったが、翌年度に反映させるのであれば前倒しで行うことについて、可能かどうかを含めて検討していきたい。

構成員：資料3-①にある「センターに登録している個人」400人というのが分かりにくい。この人たちは何をしているのか。普段からボランティアをしている人なのであれば、その人たちに対して、問3で「ボランティア活動をしているか」という質問自体の意味がないのではないか。

事務局：センターには個人ボランティア登録制度があり、現在は約400人程度登録されている。ボランティアをしたい方、特技や資格を活かしたい方が登録しており、センターの事業案内やボランティア通信を毎月送付して情報提供を行っている。登録している方全員が現在も積極的にボランティア活動を行っているとは限らないため、その質問を設けている。

構成員：アンケートの目的として、団体や個人の活動を活性化したいのであれば、センター事業への登録団体の参加率を増やすであるとか、登録中の個人ボランティアにセンターが実施する交流会などへの参加を促しマッチング率をあげるだとか、具体的なイメージを持ってアンケートを実施するとよいのでは。

構成員：前提として、ボランティア団体の種別の中で法人化していないボランティア団体と法人格を持っている団体では直面している課題が違うと思うが、姫路の割合はどのくらいなのか。

事務局：肌感覚ではあるが、7割程度が法人化していないボランティア団体で、3割程度が法人格を持っている団体と認識している。

構成員：仕事のリタイア後や仕事の合間にできる範囲でボランティア活動をしている団体と、法人格を立て事務所を構えている団体とでは質問内容も変わると思う。団体の質問としては、小規模な団体を増やしたいという目的があれば団体の立ち上げ理由や経緯、難しかったことなどを聞いてみたり、個人の質問としては、現在活動していない人に活動を行ってもらうにはどうしたらよいかを聞いてみては。また、ひめじおん講座の内容を問うアンケートを設け、体系ごとの希望をまとめ、次年度以降の講座メニューを考えていってもいい。つまり、今回のアンケートの回答を得て何をしていくのかを明確にして質問をすればよいのではないかと思う。

座長：2年前のアンケート実施時に質問項目を大幅に変更しており、連携と協働に関する設問が多くなっている。少なくとも2年前はアンケートの目的の重点として連携と協働という部分にあったのだと思う。目的を持ったアンケートで質問し、その結果を受けてこれからのセンターの活動を変化させていければよいと思う。

構成員：活性化に繋がるような情報を得たいのであれば、アンケートの実施目的として「アンケートで得られたさまざまな情報を分析して活性化に繋げていきたい」という旨を前段として表紙に記載してはどうか。さらに「活性化」とは具体的に何をイメージしているのか（BtoB、BtoCなど）、それに関連した設問はどれか、など設問意図を追加することで、回答しようという人が増えるかも知れない。

座長：前は連携と協働を重点的にアンケートを行い、その回答結果を受けてこの2年間具体的に何をしたかという詳細はやはり知りたいところではある。前同様様に連携と協働をメインで聞くのがいいのか、アンケートの質問事項を毎回変えてもいいのか。

事務局：前回実施分との比較という点では、あまり質問事項を変えすぎると比較ができなくなる。ただ、その時々で聞きたいことや目的とする質問事項は設けてもよいかと思う。

座長：資料3-②の団体アンケート案の設問1～8にある活動場所や資金、人材などの基本的な質問事項は変えなくてもよいが、設問9～11の連携と協働に絞っている部分については時代の変化に沿うように変えてもよい部分。連携と協働について前回実施時からの変化についての指標みたいなものはあるのか。

事務局：以前の運営会議での報告書によると、連携・協働をしたと答えた団体はアンケート回答数の半数程度であった。その中でも公的な機関との連携が多く、情報交換や交流、イベントや行事の共催などが挙げられた。また、連携・協働をしていないと回答した団体のうち、新たに連携したいと思う機関については公的な機関や地縁団体との連携という回答が多かった。

事務局：センターとしても教育機関との連携という部分で、以前の運営会議での意見も踏まえて、高校の探究学習の時間に登録団体と一緒に伺ったこともある。また、団体が直接地元の学校と連携しているという活動も確認している。

座長：2年間である程度の目的が達成できたという評価の指標があるのであれば、次の2年間のセンターの方針が決まり、アンケートの内容も検討していける。

構成員：アンケートの中で行政等と連携・協働したいと答えた団体・個人はマッチング交流会などに来てもらえれば盛り上がるし、アンケートの意味もある。また市の他部署とも連携して交流会を開催し、複数部署が参加することで団体や個人との繋がりが生まれるのでは。

構成員：連携や資金などのボランティア活動の土台といえる部分と同時に、活動の中身についても改めて考える必要があると思う。一番大事なことは連携することよりも連携して何をするか、それにより活動のレベルが上がったかどうかである。活動の中身を把握できればよいが、活動の分野は多岐に渡るため全てを把握することは難しい。例えば、毎年同じような活動をしている団体と新しいことにチャレンジしている団体がどれくらいあるのかを把握することも意味があるのではないかと思う。毎年同じことをすることが悪いわけではないが、活性化という視点では、「活動のレベル」についての把握も重要であると思う。

事務局：本来であれば、今回アンケートについて意見をいただき、次回の運営会議で修正案を提示するところである。もし実施時期を前倒しする場合であれば、運営会議よりも先に、メンバーの皆さんに個別にご相談させていただくことも一つ。

座長：センターの主な事業を軸としたアンケート設問の建付けとなっているが、センターの役割は姫路のボランティア活動や市民活動団体の質を高めていくことであるため、そこを踏まえて設問を工夫できるとよい。

構成員：設問の枠組みはあってもよいと思うが、単に実態把握にならないよう、問題点の把握や今後の方向性についての検討材料となる設問の工夫が必要。

構成員：前回アンケート結果を踏まえての課題があればそこに焦点を当ててもよいし、今年度事業の中での課題があればそこに協力を求めるために聞いてもよい。

構成員：現在社協でもアンケートを作成中だが、何を知りたくて質問するのかの意図を明確にすることで、考えて回答してもらえるようになるという意見に共感した。

構成員：普段はアンケートの回答者側として、アンケートを回答する際はなるべく簡単に答えていることが多いが、たしかにアンケートを回答する際に設問意図が分かりにくく感じることは過去にあった。

構成員：個人の方がボランティア活動を始めたり活動に参加したりするのは、とても勇気がいることだと思う。なので、現在活動中の方が活動に踏み出したきっかけや動機、マッチング交流会などへの参加によって活動が広がったか、といった設問があれば、マッチング交流会の周知にも繋がり、今後の参考にもなるのでは。

構成員：センターがなくてはならない理由を強めていけるようなアンケートになればと思う。その中で連携や金銭・人材的な課題については、自由記述にしまい、AI を使ってまとめれば、情報収集としてはかなり役立つのではないかと思う。

構成員：アンケートの実施時期を早めてはという意見があったがそれは可能なのか。

事務局：細かい事務手順などを確認してみないと分からないが、多少は前倒しも可能だと思われる。

構成員：新たなチャレンジも大事だが、活動を継続するという意味もすごく大事であると思う。清掃活動とかも継続することで成果や知名度もあがることもある。どちらの活動も意味があることなので、アンケート報告書を読んだ方が活動に参加しようと思えたり、アンケート結果として何か見えるものがあったりするといいい。

座長：市民活動やボランティアの質が高まっていくことが大事で、方向性も年々変わって行く中で、現状を確認したいところではある。

構成員：質と量が両方上がっていくことが大事であるが、量については難しい時代である。現在の実態が見えてくることが質を考える材料になるのでは。

座長：アンケートの内容についてはまた委員の皆さんに相談してもらえたらと思う。では本日の議事は以上として、終わりとしたい。